

編集後記

2020年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に世界中が翻弄された年でした。この編集後記を書いている今も、感染拡大のペースは一向に収まらず、新型コロナウイルス感染の“第3波”が到来したといわれています。

各新聞紙ではほぼ毎日、この話題に誌面が割かれています。ある新聞では「隠れた“第3波”」についての懸念が述べられていました。これは日本の第3波ではなく、感染の“第2波”に襲われている欧米で、コロナ禍に伴う検診中断や診断の遅れが、がん死を増加させることに対する警鐘のことです。「Lancet Oncology」に報告された論文（Maringe C et al: The impact of the COVID-19 pandemic on cancer deaths due to delays in diagnosis in England, UK; a national, population-based, modelling study. Lancet Oncol 21: 1023-1034, 2020）で、乳がん、結腸・直腸がん、食道がん、肺がんの患者データを調査し、パンデミック前の数値と比較して、診断後5年目までのがん死亡率が今後各疾患で約5～15%増加することが予想されています。日本国内でもがん検診の受診率が1割近くまで低下しているとされ、早期がんの発見率が大きく減少することが危惧されています。

整形外科領域においてはどうか。日本外科学会コロナウイルス対策委員会から出された“外科手

術トリアージ”に則り、不要不急の手術ということで多くの整形外科手術は延期されたのではないのでしょうか。膝前十字靱帯損傷といったスポーツ外傷は、自粛期間中は大きく減少し、また再建術後の再受傷もほとんどありませんでした。外傷が減ったことは良いことかもしれませんが、がん検診同様、必要な外来診療や検診にまで影響が及ぶのは大きな問題です。先日、新型コロナウイルス感染予防のため乳児股関節検診が受けられず、観血的整復術に至った症例を経験しました。PubMedでCOVID-19とdevelopmental dysplasia of the hip（DDH）を検索すると、「COVID-19の間接的な影響によるDDH診断の遅れ」に関する論文がヒットしました（Buonsenso D et al: Indirect effects of COVID-19 on child health care; delayed diagnosis of developmental dysplasia of the hip. J Ultrasound 23: 443-444, 2020）。今回のコロナ禍で適切な初期治療を受けられなかった乳児が、われわれが経験した症例の他にも全国には沢山いるのかもしれません。

2020年はわれわれ人類にとって大きな試練の年だったと思います。Personal Viewを執筆された斎藤充先生のお言葉をお借りして、2021年は“苦行を修行と思えば、道、自ずから開ける”，素晴らしい年になることを祈念します。

（石橋恭之）

「整形・災害外科」第64巻 第1号（1月号） 2021年1月1日発行（毎月1回1日発行） 定価 2,860 円（本体 2,600 円＋税 10%） 年間購読料金 定価 44,660 円（本体 40,600 円＋税 10%） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
--	--

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。